

平成26年度 学校評価実施報告書

(別添様式)

3 2回目評価

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定					アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	学校関係者評価			
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策	評価日	評価者(いずれかに○)		
1 確かな学力	授業改善	「書く力」の育成に焦点を当てる校内研修・研究授業公開授業週間	確認プログラムの結果生徒の書く文章の変容授業がわかりやすいこと	確認プログラムの通過率で1年生が若干下降 授業が分かりやすい肯定的72% 8ポイント下降	⇒	・1年生の「授業がわかる」が若干下降している ・確認プログラムにおいても、2年生、3年生の通過率は上昇したが、1年生の通過率は3ポイント下降した ・家庭学習の習慣化(家庭学習1時間以上)は学校全体として8%アップした。	・授業の「めあてとふり返り」を今後も徹底してやりきるように呼びかける ・小学校と連携して作成した「九条学習プラン」を27年4月より実践する ・図書館の活用を具体的に提示していく必要性がある ・家庭学習課題の質的向上を目指す	・学校の図書館のさらなる充実を図ってほしい ⇒	・図書館の充実に関しては、地域のボランティアを活用してはどうか ・家庭学習においては、宿題をこなすだけではなく、自ら課題を設定するなど主体性が育つものにつながる支援策を考えていきたい	
	読書の習慣化	朝読書の確実な実施図書館教育の充実	学校外で読書すること朝読書の時間に生徒に読書させること	学校外で読書する生徒・実現度に肯定的回答34%に4ポイント上昇						
	家庭学習の習慣化	計画的な家庭学習課題の提出と適切な評価学校便り等による啓発活動	家庭で1時間以上学習すること・生徒が意欲・関心を持てる家庭学習課題を定期的に出すこと	家庭で1時間以上学習する生徒・実現度に肯定的回答55%に8ポイント上昇						
2 豊かな心	あいさつの習慣化・徹底	生徒会による啓発活動毎朝の校門指導授業時のあいさつ	あいさつすること授業の中で生徒にあいさつさせること	あいさつすること生徒・実現度に肯定的回答88%	⇒	・あいさつ、規範意識については成果がみられる ・自尊感情、自己有用感に関するデータは上昇の傾向が見られる ・教師主導の取組が多いが、生徒にも変化を感じられる ・小学校や地域の方々との連携は進んでいる	・社会性の育成については、今後も生徒会を中心に生徒の主体的な活動(レベルアップブーケークや人権に関する啓発活動などを支援していく ・いじめについては生徒の動向に注視しながら、アンケート等を活用し予防教育的な生徒指導を推進する ・道徳の授業をさらに充実させる	⇒	・挨拶をしっかりできる子が増えている ・地域で子どもたちの成長を見守るという意識が高まっている ⇒	・登校時のあいさつ運動など、PTAや地域の人が子どもたちの育成に関わるよう呼びかけをしていく
	規範意識の向上	生徒会による啓発活動授業規律の確立	学校のきまりを守ること子どもに学校のきまりを守らせること	学校のきまりを守ること生徒・重要度99% 実現度86%						
	自己有用感の育成	異年齢を活用した交流事業地域へのボランティア参加を推進	他人を思いやったり親切にするような学習の場をつくること・人の役に立つことができる	「人の役に立っている」は全体的にわずかではあるがアップしている						
3 健やかな体	基本的生活習慣の確立	保健だより・学校便りによる啓発活動生徒会による生活調査	朝ご飯を食べること8時間以上睡眠時間を取りること	8時間以上睡眠を取ること生徒実現度に肯定的回答50% 5ポイント下降	⇒	・基本的な生活習慣の確立については、課題を抱える生徒は依然少なくない ・保健教育の必要性に対する認識を学校としてさらにを深める必要がある	・スマホ等の使用により睡眠時間が短くなっているため、今後も啓発に力を入れていく ・健やかな体づくりにつながる取組の充実(講演会等)を進める	⇒	・防煙教室や薬物乱用防止教室などを継続して続けて欲しい ⇒	・地域でも意識し、子どもたちの地域での活動の様子を見守って
	保健教育の充実	防煙教室・薬物乱用防止教室等の実施保健授業の充実	授業のレポート子どもの行動の変容	引き続き保健教育が子どもたちの望ましい行動となる場面が多く見られた						
	小中一貫教育の推進	小中連携会議の実施小中合同研修会の実施小中連携事業の推進	連携会議の実施状況小学校と連携して授業改善や生活指導に取り組むこと	小学校と連携して~教職員の意識は確実に高まっている	⇒	・小中連携の取組が軌道に乗り、教職員の意識が確実に変わっている ・生徒の地域ボランティア活動等に参加することの重要性に対する認識が高まった ・保護者のPTA活動への参加率は低いままである	・定期的な代表者会議・合同研修会を軸に、PDCAサイクルの中で小中一貫教育を今後も推進する ・地域の方に参加して頂ける事業を充実させ、年間を通して計画的に実施する ・PTA活動の成果をHPで発信する	⇒	・小中一貫教育がここまで進んでいることについては認識していなかった。今後が楽しみである ⇒	・今後は、各校のPTAや地域に小中一貫教育の意義目的や進捗状況を広報し、地域全体で子どもの育成を支援していく ・引き続き学校の行事への参加を地域の方へ呼びかける
4 独自の取組	地域教育力の活用	地域住民に参加して頂く事業を企画・推進地域住民との校内清掃活動	地域行事やボランティア活動に参加するように働きかけること・南区一斉清掃・校内美化活動参加率	第4回南区一斉清掃生徒の参加70名、1、2年生の半数以上が参加した	⇒					
	家庭教育力の向上	学校だより・PTA活動における啓発活動学校評価アンケートでの啓発	親として子どもが学習に向かえるように工夫して働きかけること・PTA活動、学校行事、懇談会などに参加すること・等	「親として…」「PTA活動…」共に7月と比較して大きな変化はない						

4 総括・次年度の課題

個々の取組においては次年度へ課題を残す項目も少なくはないが、全般的には生徒(生徒集団)の成長を強く感じられる一年であった。特に、生徒会を中心として、生徒が主体的に取り組む姿を多くの場面で見る事が出来た。本校の喫緊の課題である「学力向上」においても、2、3年生で数値的にも上昇を示すなど、着実に教育活動の質的充実を図ることができていると捉えている。

次年度は、小中一貫教育をさらに推進し、生徒の「生きる力」の育成を目指した教育実践を重ねていく。特に、「授業力向上」に小中で共通の目標を設定し重点的に取り組むことを考えている。また、「子どもたちは地域で育つ」ことを念頭に置き、引き続き地域の理解と協力を得ながら教育活動を推進していきたい。